摩耶山天上寺

霊山で心清める年末年始

摩耶山天上寺では大みそかの31日午後11時半に除夜の鐘が鳴り始める。まず僧侶が鐘をつき、参詣者が続く。一年の煩悩のあかを落とす、年の夜のゆかしい行事だ。

深夜0時からは金堂にて心経会。年をまたぐ法会で除災招福を祈念する。境内にある天空の大舞台からは、淡路島方面の夜景と明石海峡大橋が望める（午前2時閉門）。

晴れていれば元日の同7時ごろ、掬星台から初日の出を拝むことができる。天上寺は同6時に開門（2日以降は同9時）。三が日はあめ湯のお接待もある。

1月17日午前10時半からは初観音会。古くからの伝統行事で、年の始めに観音さまの前で罪やとがをざんげし、清らかな心持ちで一年を過ごせるよう祈る。阪神・淡路大震災や各地の天災地変・戦災物故者の追善供養を併せて行い、追悼の鐘をつく。縁起汁のお接待もある。☎078・861・2684

新年最初の山歩きを兼ねて初詣に来る人も多い

六甲山サイレンスリゾート

食事を優雅に、おもちゃで愉快に

神戸港はもちろんのこと、遠くは淡路島や和歌山まで見渡せる六甲山サイレンスリゾート。中でも絶景ポイントとして人気の「空のダイニング」では、食事をしながらゆったりと年始めを迎える優雅なプランを用意している。

「初日の出プラン」は新年1月1日午前6時半～9時、一般席（5200円）のほか、鉄板焼きコーナーの個室を使った特別席（5700円、8席限定）がある。屋外のテラスでは、コーヒーの販売も予定している。

また1月14日～2月26日には「サイレンスリゾートにレールトイがやってくる！　パート4」と銘打ち、旧館2階に巨大なレールトイを設置。子どもから大人まで鉄道好きの心を捉えて放さない。期間中は特別メニューが提供され、1月12、13日には設営作業も見学できる。☎078・891・0650

人気のレールトイが、今回はさらにグレードアップ！

ホテル神戸六甲迎賓館

二つのブランドがに ぜいたくに

柴山港で水揚げされる上質なタグ付き松葉ガニ「柴山がに」と、香住港でとれる甘味とうまみを兼ね備えた紅ズワイガニ「香住がに」。但馬が誇る二つのブランドがにをぜいたくに使ったフルコースが、ホテル神戸六甲迎賓館で味わえる。

定番の調理方法（刺し・ゆで、焼き、すき鍋）のほか、濃厚な海鮮の香りが食欲をそそる甲羅みそ焼き、かにだしの利いた〆の雑炊など、新鮮な素材を存分に生かして趣向を凝らす。

来年2月28日までの期間限定で、1泊2食付きで5万3900円～9万1300円（税込み／2人1室利用の場合の1人分料金）。予約は宿泊日の5日前まで、2人以上から受け付ける。詳しくは同ホテルホームページで。☎078・891・1239

柴山＆香住がにを味わい尽くすコース料理

六甲大学 ROKKO-SAN DAIGAKU

六甲山にまつわる自然、環境、文学、食などの多彩な催しを大学のカリキュラムに見立てて情報発信する「六甲山大学」。山の旬の情報を通して、六甲山の魅力に迫ります。　（毎月第4火曜日に掲載します）

桜ケ丘銅鐸 古代へのいざない

根岸真理が案内　山の四季便り

ねぎし・まり　アウトドア系のフリーライター。1961年、神戸市須磨区生まれ。六甲山を活動拠点とし、六甲山大学広報専門委員。著書に「六甲山を歩こう！」など。

出土地の一王山 有志が整備

「一王山が熱い」と、風のうわさが聞こえてきた。2020年9月の本欄でご紹介した、一王山十善寺「カミカ茶寮」に集う人たちの活動が活況を呈しているようだ。

「てふてふの森くらぶ」は、アサギマダラが訪れるフジバカマの花壇整備に取り組んでいる。落ち葉で堆肥を作ったり、竹で枠を組むなど、環境にも配慮した活動で〝じいちゃん先生〟たちに教わりながら小さい子どもたちも参加。異世代交流の場となっている。

「国宝桜ケ丘銅鐸（どうたく）を伝え隊」は、すぐ裏手の山の中腹にある出土地の整備に取り組む。

「桜ケ丘銅鐸・銅戈」とは、1964（昭和39）年12月に壁土用の土砂を採取するために掘削作業をしていた人たちによって偶然発見されたもの。国宝に指定され、現在は神戸市立博物館の特別室で展示されている。

考古学的にも非常に貴重なものだが、出土地についてはほとんど顧みられることもなく、場所も判然としない状態だった。そこで、気軽に訪れることができるようにと、アプローチの整備に着手。神戸市や灘区役所の協力を取り付けながら、「伝え隊」のメンバーが手作業で道の電所の西側から山道へ入る。入り口には、高羽の新田開発に貢献した楠本三右衛門翁の碑が建つ。ここから整備を進めている登山道をたどること約15分。坊主山から南に伸びる尾根上の2・5㌔三角点から東へ約80㍍。尾根の北面の崖が出土地だ。

現地へ行ってみると、なぜここを埋納地に選んだのか、とても不思議に思える。眺望が開けているわけでもなく、ひっそりとした北斜面。土砂の採取によって元の地形ではなくなっている可能性もあるが、なぜここなのだろう。あえて目立たない場所を選んだのか。大切なものをここまで運んできて、長年に渡って埋め続けた古代人の思いはなんだったのか。未解明のことばかりだが、壮大なる歴史ロマンに思いを馳せながら、一度訪ねてみてはいかが。

高羽交差点にある「国宝桜ケ丘銅鐸・銅戈」の記念碑

出土記念日の「銅鐸まつり」には地域の子どもたちも参加した

出土地は坊主山から南西へ伸びる尾根の小ピークの北側にあり、看板が立てられている

登山道補修、まつり開催

出土記念日の12月11日には「銅鐸まつり」が行われた。現地までのプチハイクや歴史解説、子どもたちが銅鐸のレプリカを作るワークショップなど。お昼にはカミカ茶寮特製「どうたくべんとう」を食べながら、弥生人の暮らしについて考え、地域の歴史に親しむ一日となった。

出土地へは「高羽」交差点から北東へ徒歩約20分。新神戸変補修などを行っている。

「どうたくべんとう」も古代の味わい…？

カミカ茶寮＋読林　神戸市灘区一王山町の十善寺境内。1階は茶屋、2階に読書スペースを備える。午前6時半より営業。木曜定休、月曜午後休み。

環境学部

◆シモバシラ展　来年1月7日から3月19日まで9～17時、神戸市立森林植物園（神鉄「北鈴蘭台」駅から無料送迎バス）。枯れた茎に「霜柱」を作り出し、別名「氷の花」とも呼ばれる植物「シモバシラ」の不思議な世界を紹介する。森林展示館2階にて展示。無料（別途入園料高校生以上300円、小・中学生150円）。同園☎078・591・0253

健康学部

◆冬の伊川源流をめぐる　来年1月8日9時半、しあわせの村中央バス停集合。伊川源流から旧白川古道へ。「石抱きカヤ」や「太陽と緑の道」など、冬ののどかな里山を、小鳥のさえずりを聞きながら歩く。講師は六甲山自然案内人の会・会員。弁当、飲料水、雨具などを持参。参加費300円（保険料含む）。予約不要。気象警報が出た場合は中止。六甲山自然案内人の会・久保さん☎090・3995・7144（19～21時）

芸術学部

◆森のラッキータイム「モミジバフウのオブジェをつくろう！」　来年1月14日10時半、11時15分、13時半、14時15分（各回40分程度）、神戸市立森林植物園（神鉄「北鈴蘭台」駅から無料送迎バス）。モミジバフウの木の実を使ってオリジナルオブジェを作る。無料（別途入園料高校生以上300円、小・中学生150円）。各回定員10人。ホームページまたは電話などで申し込む。同園☎078・591・0253

催しの日程、内容などは変更される場合があります。お出かけ前に主催者にご確認ください。ホームページhttp://653daigaku.com/